

妙法尼御返事

弘安元年五月一日 五七歳

干飯ほしいいと一斗・古酒一筒・ちまき粽・あうざし青麩・たかんな方々の物送り給びて候。草にさける花、木の皮を香として仏に奉る人、りょうじゆせん靈鷲山へ参らざるはなし。いわ況んや民のほね骨をくだけの白米、人の血をしばれるが如くなるふるざ古酒けを、仏・法華経にまいらせ給へる女人の成仏得道疑ふべしや。

五月一日

日 蓮 花 押

妙法尼御返事

日月は地におち須弥山しゆみせんはくづるとも、彼の女人仏に成らせ給はん事疑ひなし。あらたのもしや、たのもしや。